

私ども昭和 33 年（1958 年）に、工学部採鉱冶金学科（現マテリアル工学科）を卒業した同期生は、今年卒業後 50 周年を迎えましたので、築城 400 年で賑わう縁の地「熊本」において、5 月 20 日（火）～5 月 22 日（木）の間、盛大に記念の同期会「悠哉会」を催しました。盛大と申しましても既に幽冥境を異にした 3 名を除き 14 名が全員参集、記念の会であることから夫人も一緒にとお誘いした結果、2 名の参加をみて総勢 16 名の会合となりました。

今回は、大学訪問を中心に、市内観光と近郊ならびに名勝地を観光し懇親会を行うことを織り込み、2 泊 3 日の計画を立て実行しました。

初日は、熊本市内の K K R ホテル熊本に宿泊、全員で懇親会を開き大いに語り合い大いに飲んで、愉快的な再会の喜びを分かち合いました。

大学訪問は時間の関係もあって、オプションとしてプレ大学訪問を行い、黒髪北および南キャンパスを散策しながら往時を偲び、五高記念館（教養課程で学んだ教室あり）および工学部の旧機械工場（専門課程で実習）を参観いたしました。いずれも懐かしい思いのこもった建造物や施設であり、去りがたいほどの感慨を覚えました。メインの大学訪問は半日でしたが、同期の仲間の一人である石原君（工博）に、「金属アレルギーと生体用金属材料」と題した講演をしてもらいました。大学関係者の聴講も多く、意義ある催しだったと考えます。

次いで、大学院自然科学研究科教授の高島副科長から大学の現状を伺いましたが、熊大もメジャーな大学同様に、大学院を中心とする大学運営に移行しており、国際化と併せて研究の充実による大学間の競争に打ち勝つ体制の実を挙げるべく、種々尽力されていることについて、組織図や成果のグラフなどを示しながら詳細な説明をいただきました。母校のありように頼もしく思うと同時に、大いに将来を期待したいものです。

更に現在マテリアル工学分野で最もホットな話題である「次世代耐熱マグネシウム合金」の説明と実証実験設備のご案内を、大学院自然科学研究科の安藤新二教授よりいただきました。設備はいわゆるプロトタイプの実証試験設備であり、小さな工場といって差し支えないものでありました。研究室レベルで得られた材料の研究を、県の支援と産学協同でここまで引っ張ってこられたリーダーシップ、関係の皆様方の凄情熱とエネルギー、更にはパワーを感じざるを得ませんでした。開発段階の結論が早い時期に得られることを期待し、OB として関係の皆さんに賞賛の辞を捧げたいと思います。

市内観光は、市内循環バスを利用して熊本城を中心に巡りましたが、復元された熊本城の本丸御殿は、往時の華やかさを存分に味わわせてくれました。また近郊観光は上天草市の亀屋ホテルに宿泊し、二度目の懇親会を行うと共に、翌日は天草灘へのクルージングとイルカウォッチングを楽しみました。

かくして来年は 11 月に広島で開くことを決め、再会を約しつつ散会した次第でした。

詳細は下記のアドレスにてご覧いただけます。アルバム形式ですので、参加者以外には興味のないホームページですが、最初のサマリー部分だけでもご覧願えれば幸いです。

<http://www.nextftp.com/mlp/yuyakai>

このホームページのメニュー（ナビ）にスライドショーがありますが、このスライドは他の箇所には Upload されているものを呼び出しますので、最初は 10 秒程度お待ちいただくこととなりますが、その後はほぼ通常通りに開きます。

【投稿：高島 靖】